

若手音楽家育成事業
プラットフォームコインコンサート
ムジカ・ワヤ「夢にまで見る“わや！”ないちにち」

2024年12月19日(木) 14:00 開演
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース

出演
サクソフォン:たけだりょうが、ピアノ:いちいゆうか

【コンサートプログラム】

音声読み上げに対応するため、一部の漢字表記を平仮名に変更しています。

1. 《ニューヨークからの4枚の絵》より 第1楽章 美しい夜明け

作曲:モリネッリ (1963年生まれ)

ロベルト・モリネッリは、イタリアの作曲家、指揮者、ヴィオラ奏者。作編曲家、指揮者として多くのアーティストと共演してきた彼は、現在、イタリアにあるパルマ音楽院のヴィオラ教授としても活躍しています。

今回演奏する組曲《ニューヨークからの4枚の絵》は、アメリカとその音楽や文化を愛するヨーロッパ人の目に映るニューヨークにインスピレーションを受け、サクソとオーケストラのために作曲されました。第一楽章の「美しい夜明け」は、タイトル通りの情景をイメージした作品。ビル群の向こうに見える水平線の先から覗く美しい日の出。思わず深呼吸をしてしまう澄みわたる空気感を味わっていただければと思います。(武田)

2. タイプライター

作曲:アンダーソン(1908年生まれ 1975年没)

ルロイ・アンダーソンは 20世紀に活躍したアメリカの作曲家。ジャズなどの大衆音楽が発展した時期に活躍した彼の作品は、クラシック音楽と現代ポップソングの架け橋になるような楽しく軽快な作風が魅力です。

本物のタイプライターは改行するときにはベルのおとが鳴りますが、本日の演奏では卓上ベルのおとと、サクソ、ピアノによる ムジカ・ワヤ オリジナルバージョンでお届けします。(いちい)

3. イパネマの娘

作曲:アントニオ・カルロス・ジョビン(1927 年生まれ 1994 年没)

アントニオ・カルロス・ジョビンはブラジルの作曲家。ラテン音楽とジャズを融合させたボサ・ノヴァというジャンルをきずきました。「イパネマの娘」は、ブラジルの リオデジャネイロにある「イパネマ」というビーチを長身の美少女が歩く姿から着想を得て作曲されました。1964 年のグラミー賞では 2 部門受賞するなど、世界的に大ヒットした作品のひとつです。(いちい)

4. ジュ・トゥ・ヴ

作曲:サティ(1866 年生まれ 1925 年没)

エリック・サティは、フランスの作曲家。「ジュ・トゥ・ヴ」とはフランス語で「あなたが欲しい」という意味で、恋愛テーマを持つ作品です。日本ではコマーシャルにも使われており、シャンソンなどで多くの人に親しまれています。サティのピアノ作品の中でも比較的メロディックで、調和の取れた一曲。軽快なリズムで描かれる、華やかな雰囲気をお楽しみください。(武田)

5. パリジェンヌ風に

作曲:デュボア(1930 年生まれ 1995 年没)

ピエール＝マックス・デュボアはフランスの作曲家。サクソフォンをはじめ管弦楽器のために多くの作品を残した作曲家であり、クラシックの中でも気楽で聴きやすい、ユーモラスな作品を数多く残しています。(デュボアと親交のあったサクソフォン奏者から「冗談やコメディがかなり好きな人だった」と伺ったこともあり、その作風には彼の性格の影響が見受けられます。)

今回演奏する「パリジェンヌ風に」は《組曲形式による性格的小品集》という全 5 曲からなる作品の 5 曲目にあたる曲です。日本人が思い浮かべるパリジェンヌと、本場フランス人が捉えるパリジェンヌ。どれほどイメージ的な違いがあるのか、そんなところに注目してお聴きください。(武田)

6. 四季のまにまに

作曲:武田りょうが

タイトルの「まにまに」には、2 つの意味をかけています。「神のまにまに」という言葉のように、神や四季の仰せのままに従いながら人は日々を過ごしています。夏になれば薄着になり、冬は暖かくして過ごすように、服装だけでなく、様々な変化を知らず知らずのうちに体験しています。また、もうひとつは主に四季の間を意味しています。春夏秋冬、昼と夜、それぞれが移ろいゆく時は必ず何か不安定になりま

すが、その不安定さに心地良さを覚えるのはなぜなのか。自分だけかもしれない。いや、もしかしたら共感してくれる人もいるかもしれない… そんな言葉にならない感情を、曲を通して感じてもらいたいと思い、この曲を作曲しました。(武田)

7. 《ニューヨークからの4枚の絵》より 第2楽章 タンゴクラブ

作曲:モリネツリ

タンゴの巨匠アストル・ピアソラに捧げられた曲。リズムが特に重要な要素である「アルゼンチンタンゴ」のスタイルで書かれており、ラテンアメリカの音楽に合わせて演奏したり踊ったりする大都市のクラブを彷彿とさせます。また、ピアソラの作品「オブリビオン(忘却)」のような哀愁漂う雰囲気垣間見える瞬間があり、4分ほどでアルゼンチンタンゴの魅力を堪能できる珠玉の一曲であることは間違い無いでしょう。(武田)

8. 練習曲 作品 10-3「別れの曲」

作曲:ショパン(1810年生まれ 1849年没)

フレデリック・ショパンはポーランドの作曲家。「別れの曲」という題名がつけられたのは、1934年に公開されたショパンを描いたドイツ映画でこの曲が使われたことに由来しています。

当時のポーランドはロシアに支配されており、ショパンは音楽活動のためにポーランドを離れ、ウィーン、そしてパリに旅立っていきました。ショパンの故郷ポーランドへの想いが込められているこの曲は、「これ以上美しいメロディーは書けなかった」とショパン自身が言ったくらい、甘くて切ない旋律が特徴的です。(いちい)

9. 《ニューヨークからの4枚の絵》より 第4楽章 ブロードウェイナイト

作曲:モリネツリ

マンハッタンのきらめく街並みや、タイムズスクエアの輝くライトの点滅、ブロードウェイ劇場のような音楽の漂う場所を表現しています。本日のコンサートの最後を飾る曲として選びました。

どんな1日であれ終わりよければ全てよし、皆様にワクワクとドキドキをお届けして、楽しく締めくくりたいと思います。(武田)

【出演者プロフィール】

武田りょうが

愛知県刈谷市出身。愛知県立刈谷北高等学校を経て、昭和音楽大学演奏家 I コースを卒業。邪な理由で入部した吹奏楽部でサクソフォンを 13 歳よりはじめ、現在はサクソフォンによる他楽器曲のアレンジや自作曲の制作、演奏するなど精力的に演奏活動をするほか、愛知県内をはじめとした吹奏楽指導や個人レッスンもおこなっている。これまでに第 61 回国際芸術連盟主催新人オーディションにて最優秀新人賞、第 38 回ジュニアクラシック音楽コンクール木管の部にて第 3 位(1 位なし)、及川音楽事務所主催第 49 回新人オーディションにて最優秀新人賞を受賞。サクソフォンを佐野のりえ、大森義基の各氏に師事。ジェロームラン、ニキータズイミン各氏のマスタークラスを受講。島村楽器音楽教室、徳川ミュージックアカデミー、パピエミュージックスクール、ヨモギヤ楽器バルドンフィルステージ各講師。

いちいゆうか

大阪府出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、名古屋音楽大学ピアノ演奏家コースを 4 年間継続特待生(学費全額免除)で卒業。2024 年同大学院修了。第 17 回シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA 高校生部門アジア大会金賞。第 21 回浜松国際ピアノアカデミーコンクール第 5 位。第 21 回大阪国際音楽コンクール Age-U 第 2 位。在学中に、成績優秀しゃによる高校卒業演奏会、大学卒業演奏会、読売中部新人演奏会、大学院修了演奏会等に出演。ポーランド・シレジア・フィルハーモニー管弦楽団、セントラル愛知交響楽団と共演。アンサンブルピアニストとして、I.コハーン(クラリネット)、佐野のりえ(サクソフォン)の各氏のリサイタルで共演。これまでピアノを福井亜貴子、二宮裕子、関本昌平、清水こうきの各氏に師事。現在ピアニストとして活動するほか、名古屋音楽大学授業補助員、伴奏員、及びアカデミー講師を務める。

【スタッフ】

舞台 = 片桐 健

音響 = 佐原宏信

照明 = 池田俊晴

制作 = 石田晶子、長坂奈保美、高田しょうこ

票券 = 上栗ようこ、加賀ちなつ

主催：公益財団法人豊橋文化振興財団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

企画制作：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT